

作物研究所 資源作物見本園

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究所主任研究員 大潟 直樹

世界では地域の風土に適した多様な作物が育てられており、これらは間違いなく人類の歴史的な財産となっています。しかしながら、農産物の経済性が重視されるなかで、トウモロコシ、イネ、コムギ、ダイズ等の特定の作物や均一品種に栽培が集中し、昔ながらの作物や品種が栽培されなくなってきています。1993年に発効採択された「生物の多様性に関する条約」では、第1条に「生物の多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用及び遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分をこの条約の関係規定に従って実現することを目的とする」と記されています。海に囲まれ南北に長く、平坦地から山間部まである多様な日本の農村では、世界的にも多様な作物が数多く栽培されてきました。食用のキビ、ヒエ、アワに代表される雑穀類、工芸作物の麻や藍等について現在でも栽培されている作物もありますが、戦後の社会経済的な理由等により多くの地域から姿を消してしまいました。

茨城県つくば市にある独立行政法人農業・食品

産業技術総合研究機構作物研究所では、今ではあまり栽培されなくなった作物や関東地域では一般に見られない作物を栽培展示するため資源作物見本園を設けています。平成20年は50種（品種や利用方法の違いにより区別すると59品目）を栽培しました。イネでさえも触れる機会の少なくなった昨今、一度に多様な資源作物に出会えることは有意義なことだと思います。資源作物への理解を通して日本の歴史に思いを深めていただければ幸いです。10aほどの小さな展示圃ですが実物を見たり、触れたりすることによって、作物への理解が深まります。子供達の見学も多いようですが、栽培された経験のある方からは当時の苦労話などが聴かれます。昨年は、台風が来なかったことから倒れる作物は少なく、飼料用のソルガムにいたっては草丈が4 mを越えるなど壮観でした。なお、資源作物見本園に試作されている作物の種子は一部を除いて、独立行政法人農業生物資源研究所の農林水産ジーンバンク（有料）から入手できます。

表1 資源作物見本園の栽培作物（平成20年度）

名称	用途	名称	用途	名称	用途	名称	用途
アマランサス	食用	アマ（亜麻）	繊維	ダイズ（大豆）	食用	ベニバナ（紅花）	油糧用、色素
キノア	食用	ワタ	繊維	アズキ（小豆）	食用	ゴマ	油糧用、食用
ホウキギ	籐、食用	ボウマ	繊維、紙	ケツルアズキ	食用	エゴマ	油糧用
ソバ	食用	ケナフ	繊維、飼料	ササゲ	食用	イグサ（い草）	畳
ダクタンソバ	食用	コウマ（黄麻）	繊維、紙	リョクトウ（緑豆）	食用	アイ（藍）	染料
リクトウ（陸稲）	食用	トロロアオイ	繊維、糊	ラッカセイ	食用	ジャンプー	薬用
アワ	食用	モロヘイヤ	食用	カニショウズ	食用	シソ（紫蘇）	食用、香辛料
キビ	食用	ウコン	食用、香辛料	インゲンマメ	食用	テンサイ	製糖用
ヒエ	食用	サツマイモ	食用、澱粉用	ライマメ	食用	サトウキビ	製糖用
シコクビエ	食用	ジャガイモ	食用、澱粉用	シカクマメ	食用	ローズマリー	香料
ハトムギ	食用、茶	ヤーコン	食用	ジュウロクササゲ	食用	ラベンダー	香料
モロコシ	食用、籐、飼料	コンニャク	食用	ニガウリ	食用		
モチトウモロコシ	食用	キクイモ	薬用	ヒマワリ	油糧用		

《資源作物見本園作物形態》

(カラーグラビア参照)

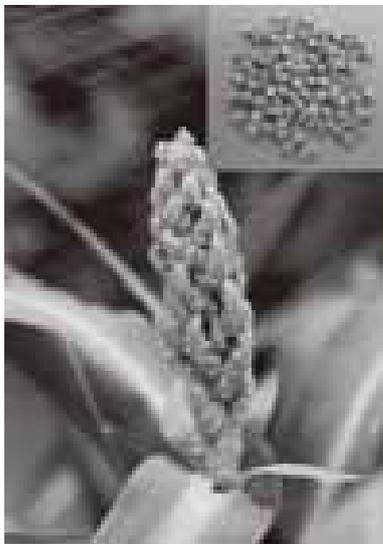
アワ (粟、*Setaria italica* BEAUV)



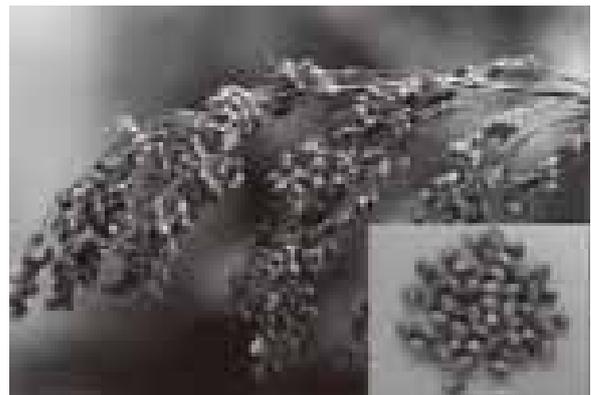
キビ (黍、*Panicum miliaceum* L.)



ヒエ (稗、*Echinochloa utilis* OHWI)



モロコシ (蜀黍、*Sorghum bicolor* MOENCH)



シコクビエ
(鴨足稗、*Eleusine coracana* GARTNER)



ハトムギ
(鳩麦、*Coix lacryma-jobi* L.)

